

令和 7 (2025) 年度三重県におけるカワハギの資源評価

要約

本資源の鳥羽磯部漁業協同組合と三重外湾漁業協同組合の漁獲量の合計値の推移に基づき資源評価を実施した。2024 年の値から資源水準は「低位」であり、資源動向は大型定置網漁業の CPUE から「減少」と判断した (図 1, 2)。

まえがき

カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* は、三重県では主に伊勢湾口域および熊野灘沿岸域で漁獲される重要な水産資源である。漁獲量は 2012 年以降から減少している。主な漁法は定置網、刺し網、カゴ漁等で、漁業の最盛期は刺網 10~12 月、定置網・カゴ漁は 5~7 月である。

生態

カワハギは、フグ目カワハギ科に分類される魚種で、青森県~九州南岸の日本海沿岸、瀬戸内海に分布する (林・荻原, 2013)。水深 100 m 以浅の岩礁域付近の砂底や転石のある砂底に生息する (益田・小林, 1994)。産卵期は 5~7 月で、6 月が産卵盛期であると考えられる (水野ほか, 2007)。岩礁や海藻表面に生息する甲殻類や砂中に生息する二枚貝や多毛類、魚類、海藻などを摂食している (末廣, 1934)。三重県におけるカワハギ科の重要種はカワハギ、ウマヅラハギ、ウスバハギの 3 種である。カワハギは定置網、刺網、カゴ漁等で漁獲され、最盛期は刺網 10~12 月、定置網・カゴ漁は 5~7 月である。

資源の状態

1 材料および方法

資源評価に使用したデータセットは以下のとおり

データセット	基礎情報, 関係調査等
漁獲量・資源量指数	漁獲量 (鳥羽磯部漁協: 2012~2024 年, 三重外湾漁協; 2012~2024 年) 定置網漁獲量 (三重県ブリ定置漁獲統計: 2005~2023 年)

2 資源水準と資源動向

資源水準は、鳥羽磯部漁業協同組合と三重外湾漁業協同組合のすべての漁業種類における漁獲量の合計値を指標とした。資源動向は、県内のカワハギの漁獲のうち、2011~2023 年において 8~24% を占める大型定置網漁業の漁獲量を、操業回数で除した CPUE を指標とした (図 1)。

カワハギの 2012~2024 年までの鳥羽磯部漁協と三重外湾漁協漁獲量の合計値の第一 3 分位点 (34 トン) を低位と中位, 第二 3 分位点 (73 トン) を中位と高位を区分する基準値として判断した。2024 年の漁獲量は 17 トンであることから資源水準は「低位」と判断された (図 2)。また、大型定置網漁業における 2020~2024 年の 5 ヶ年の CPUE の回帰直

線の傾きは-0.00470 で、中間年（2022 年）の推計値 0.091 で割ると年変動率は-5.170%となることから資源動向は「減少」と判断した（図 3）。

現在行われている資源管理

特になし。

他海域の状況

カワハギ太平洋中・南部状況報告書（水産研究・教育機構水産資源研究所浮魚資源部ほか，2024）では，カワハギの漁獲量は 2015 年以降減少傾向で，近年の漁獲量の合計値は 100～150 トン程度で推移している（図 4）。

次年度以降の取組

県内の漁法別漁獲量において最も漁獲量が多い刺し網の漁獲について，CPUE を算出することが最適である。しかし，2019 年に取得データ元である漁協のデータ改修があったため，各船の特定が 2019 年以降で困難となり，2025 年評価時点においては CPUE の算出を見送った。次回評価以降において刺し網が引き続き最も漁獲量が多い漁法であった際には，その中で最も漁獲がある地区の水揚げを行っている船についての CPUE を算出し，資源評価に用いるようにする。

将来考えられる資源管理の取組としては，産卵親魚の保護が考えられる。

三重県水産研究所 佐藤 雄太郎

引用文献

- 林公義・荻原清司，2013：カワハギ科．中坊徹次（編）日本産魚類検索全種の同定 第三版，東海大学出版会
- 益田一・小林安雅，1994：日本産魚類生態大図鑑，東海大学出版会．465 pp
- 水野かおり・山下浩史・八木秀志，2007：種苗生産技術開発研究（ウマヅラハギ・カワハギ）．平成 18 年度愛媛県水産試験場事業報告，41－45
- 末廣恭雄，1934：カワハギの消化系と食餌に就て．動物学雑誌，46，317－323
- 水産研究・教育機構水産資源研究所浮魚資源部・千葉県水産総合研究センター・神奈川県水産技術センター・静岡県水産・海洋技術研究所・愛知県水産試験場・三重県水産研究所・和歌山県水産試験場・徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課・高知県水産試験場・大分県農林水産研究指導センター水産試験部・宮崎県水産試験場，2023：カワハギ中央.令和 5（2023）年度資源評価調査報告書.水産庁・水産研究・教育機構，東京，https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_135.pdf（最終確認日；2025 年 2 月 24 日）

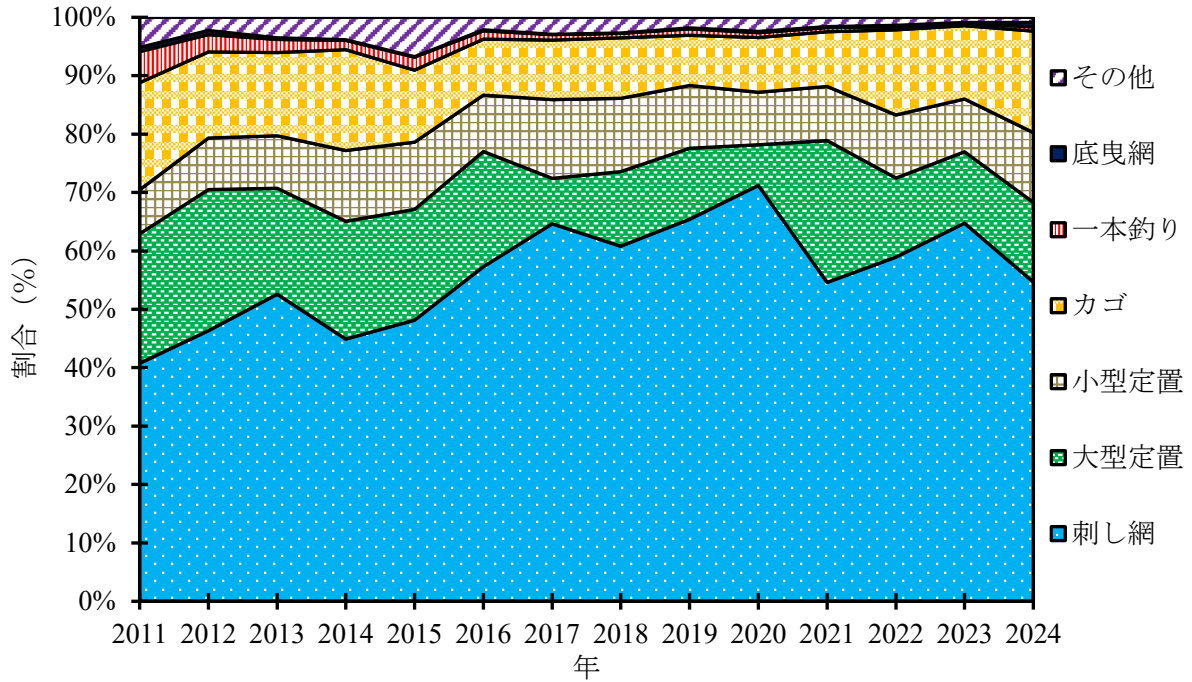


図1 鳥羽磯部漁協と三重外湾漁協の漁法別漁獲量比の推移

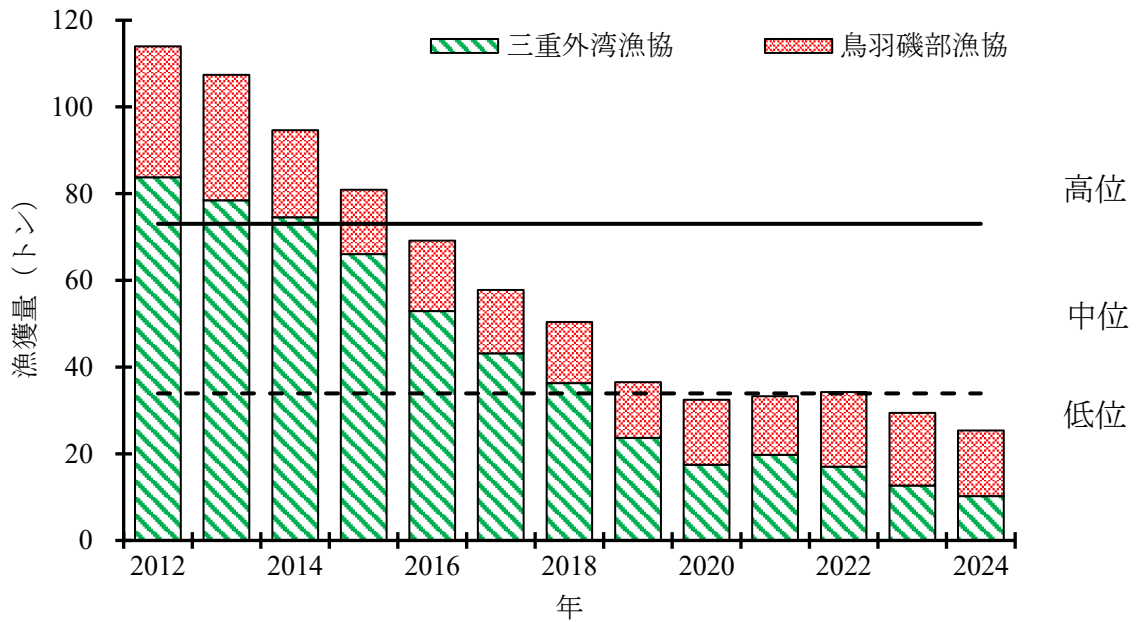


図2 鳥羽磯部漁協と三重外湾漁協の漁獲量の推移

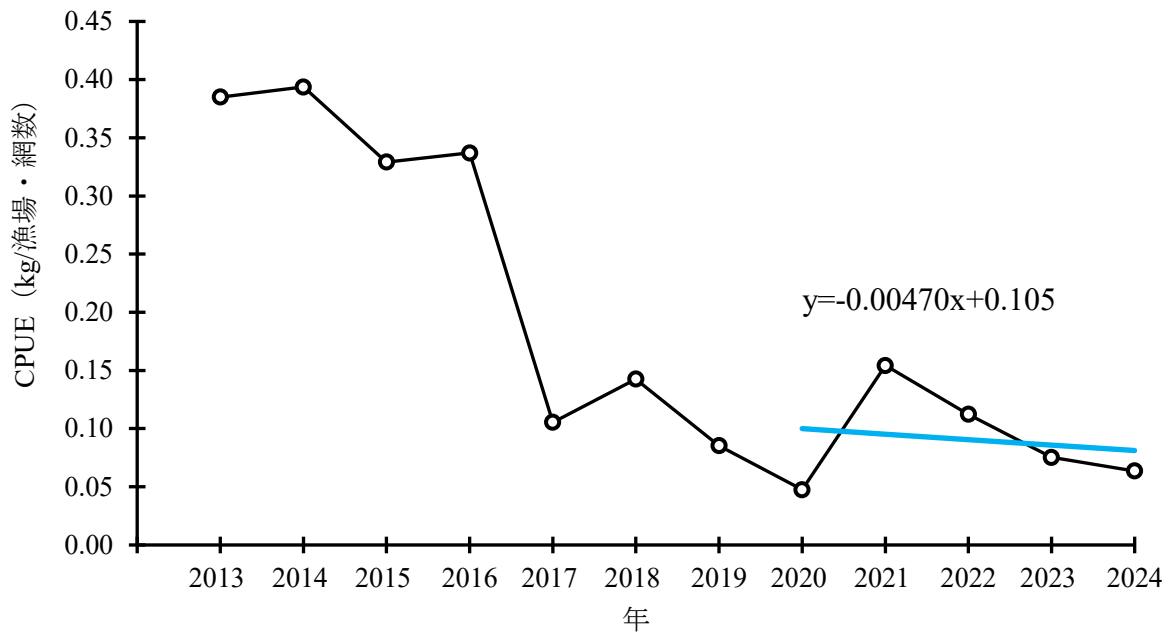


図3 大型定置網漁業における CPUE（刺網）の推移

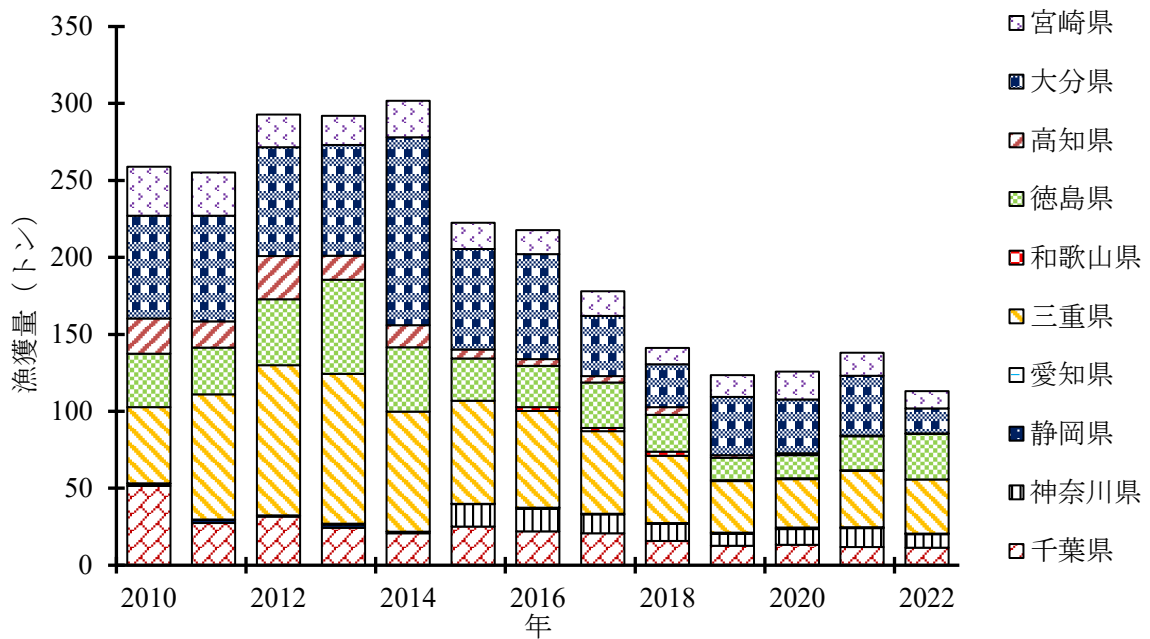


図4 太平洋中・南部のカワハギ漁獲量の推移（カワハギ太平洋中・南部状況報告書（水産研究・教育機構 水産資源研究所浮魚 資源部，2024）を基に作成。なお，神奈川県は2015年以降，和歌山県は2016年以降のデータ）